

小学校第2学年国語科学習指導案

授業者

- 1 単元名 詩の楽しみ方を見つけよう（光村二下）
 学習材名 「ねこのこ」「おとのはなびら」「はんたいことば」

2 単元の目標

- 言葉の響きや言い換えなどを楽しみながら、言葉を豊かにすることができる。
- 詩を読んで感じたことを共有することができる。
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) ②擬態語、擬音語の意味を理解し、使える語彙を増やしている。	①「読むことに」において、詩を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ)	①詩を読んで感じたことを積極的に共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。 ②言葉のもつ響きや言い換えなどを楽しんでいる。
学習活動に即した具体的な評価基準	① 語の区切りやリズムに気を付けて音読している。	① 詩を読んで、感じたことや思い浮かべたことを発言したり、書いたりしている。 ② 自分が面白いと思った詩を選び、その理由を考えてカードに書くことができる。	① 詩を読んで感じたことを積極的に共有している。 ② 詩集を進んで読み、詩の世界に入って楽しんでいる。

4 児童観

- (1) 「国語に関するアンケート」結果を分析しての児童の実態

(2) 東京ベーシックドリルの結果を分析しての児童の実態

2年2組に「東京ベーシック・ドリル（改訂版 令和2年4月1日更新）」を使用して、アセスメントを行った。今回のアセスメントの目的は、児童の読み書きへの理解度を把握するためである。アセスメントの内容は、「1、2年言語」（既習範囲）で、12ページ分である。児童数は、計33名（男16名、女17名）である。日程は、11月9日～17日で、各5分（1回につき下記の2つの項目）で行った。

アセスメント結果（結果は、別紙参照）から、長音（「う」や「お」で表す伸ばす音）や拗音（小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」）の学級平均は、95%以上と高い正答率であることが分かった。そのため、「ぼうし」や「ノート」などの言葉は、「お」と「う」、「一」なのか区別することができている。また、拗音に関しても、言葉によって区別し、適切な文字を記入することができていた。

しかし、「いろいろな言葉」①と③、「拗音・促音（小さい「っ」の詰まる音）」の学級平均は、90%を下回っている。

いろいろな言葉①は、「つめたい」「すずしい」「ひんやり」「あたたかい」を選択し、枠に記入する問題である。「あたたかい」は区別しやすいが、「つめたい」「すずしい」「ひんやり」の3つの似た意味の言葉を区別するのは、少し難しかったようである。これらの問題を個々に見てみると、「朝の空気は（ひんやり）として、ここちよい。」という問題に対して、21.2%（7人）が、「すずしい」や「あたたかい」の誤回答をしていた。また「高原は、夏でも（すずしい）。」という問題は、「高原」という言葉が分からず、悩んでいる児童が多かった。そのため、無回答も多く、24.2%（8人）が誤答であった。

いろいろな言葉③は、「しんせつな」「しょうじきな」「ゆうきのある」「あたたかい」を場面に応じて、選択する問題である。平均正答率は80%だが、全問正解しているのは、20人（60.6%）だけだった。特に「先生は、ないているほかに（あたたかい）ことばをかけてくれた。」という問題は、誤答は、8人（24.2%）だった。その内、誤答の「しんせつな」と答えた児童は、7人（21.2%）だった。また、「（しんせつな）おまわりさんが、ていねいに道を教えてくれた。」という問題は、誤答している児童は8人（24.2%）いた。その内、誤答の「あたたかい」と答えた児童が5人（15.1%）いた。2問の言葉の意味や場面における使い分けが、あまり理解できていない児童が多く、この2問を正答とは逆に回答している児童が多かった。

以上のことから、長音や拗音の一般的な理解度は、標準だと考えられる。しかし、似た意味の言葉

を区別することは、あまり得意ではないと考えられる。

(3) 学年の児童の実態

本学年の児童は、授業の中で、積極的に考えを発言し、グループ活動においても友達と意見を交換することができる。また、漢字の書き取りや書写でも、課題に集中して取り組み、一字ずつ丁寧に書くことを意識している児童が多くいる。休み時間には、読書をしたり、図書室利用日には多くの児童が本を借りに行ったりするなど、本に親しんでいる。

～ 省略 ～

低学年では「ことばあつめ」や「ことばビンゴ」などの言葉遊びや、毎時間の図書での読み聞かせと併せて学級でも教師による読み聞かせを定期的に行うなど、日本語に関心を持ち、学習意欲を向上させる中で、様々な語彙を獲得できるような手立てに取り組んでいる。

読み聞かせでは、プロジェクターに映る本を見ながらだと、朗読に聞き入る場面も多く、物語を楽しむ様子も伺える。知らない言葉を積極的に質問するなど、言葉に対する興味関心は高く、知的好奇心も旺盛であると感じる。しかし、学習に出てくる物の名前や感情、様子を表す言葉などが分からず物語や話を読み深めることが難しいのが現状である。そのため、身近なことを表す語句の量を増やし日常生活で使われる言葉を中心に語彙を増やし、学習や日々のコミュニケーションなどで活用できるようにしていく必要がある。

5 教材観

本教材は、「ねこのこ」「おとのはなびら」「はんたいことば」という3つの詩について、ようすを思いうかべたり、言葉の響きを楽しんだりしながら読む学習である。

「ねこのこ」では、児童にとって様子を思い浮かべやすい子猫が取り上げられている。この詩の特徴としては、擬態語と擬音語が全ての行の終わりに書かれていることである。これがリズムを生み、その詩の様子を思い浮かべる手がかりとなる。どんな様子、気持ちなのかを想像させながら読ませたい。

「おとのはなびら」の特徴は、反復と隠喩、擬音語である。ピアノの音を花びらに喩え、それを花壇としていることの効果に着目させ、花壇のようだからいろいろなピアノの音色がすることに気づかせたい。また、花や花壇に喩えていることから、このピアノの音色が美しいと感じている様子も想像しながら読ませたい。

「はんたいことば」の特徴としては、「うれしい」の反対は「かなしい」などであると想像するところを、「いしれう」と文字を逆さにする面白さがある。また、間を空けて音読することで、次の連を言う面白さが出てくる。言葉遊びの楽しさを感じながら読ませたい。

これらの特徴に着目し、様子を思い浮かべたり、言葉の響きを楽しんだりしながら音読することで、言語の力を育てていきたい。

6 単元の位置付け

1年

かたつむりのゆめ／はちみつのゆめ
・複数の詩から好きなものを選び、音読する。

2年

雨のうた ・言葉の響きを楽しみながら音読する。

スイミー・学習発表会で音楽物語（音楽劇）として発表
・文や絵から様子をとらえ、物語に合ったセリフを考え取り入れ、演技を工夫する。

ねこのこ／おとのはなびら／はんたいことば
・好きな詩を選び、理由を添えて選ぶ。

3年

詩のくふうを楽しもう
・表現のおもしろさを味わい、創作につなげて楽しむ。

7 手立て

○実態調査の工夫

- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の2年生版を作成し、結果を分析した。
- ・言葉の力を確かめるために、東京ベーシックドリルから抜粋してアセスメントを実施し、結果を分析した。

○言葉を豊かにするための工夫

- ・語彙力を増やすために、遊び感覚で行える言葉遊びを朝学習や授業で取り組んだ。例えば、ことば遊びでは、テーマから想像した言葉をマッピングで広げていくなどの活動を行った。
- ・しりとりをしたり、仲間集めをしたりと辞書を活用しながら言葉を集めていく。

○読書活動の工夫

- ・図書館司書による週1回の読み聞かせや担任・図書委員会による読み聞かせなどを定期的に行っている。先生方が読み聞かせをすることで、自分では選ばない様々な分野に触れることができる。
- ・詩を定期的に音読の宿題として出したり、授業で音読したりと、詩に親しむ活動を取り入れる。

◎読みを深めるための工夫

- ・教材「ねこのこ」では、ことばや内容を想像しやすくするために動作化を取り入れていく。

◎板書の工夫

- ・3つの詩を拡大掲示し、児童の気づきや発言を書き込んでいく。そのことで、他の児童の良い気付きを見て、さら考えを深めることができるように支援する。
- ・3つの詩の中から好きな詩を選ぶ際は、3つを詩の特徴を見比べることができるように、全ての詩を並べて掲示する。

◎ワークシートの工夫

- ・自分の考えの根拠を明らかにしながら話すために、「私がよいと思った詩は、_____です。理由は、だからです。」という話型を活用していく。
- ・理由が書けない児童には、ヒントカードを用意し、その中から選び自分の考えをもたせていく。

8 単元指導計画（本時2/4時間）

時	ねらい	○主な学習活動	◆指導の留意点 【評価規準・評価方法】
1	言葉のおもしろさに触れたり、様子を思い浮かべたりしながら、詩を楽しむ。	<p>○単元名から、学習することを予想する。 ○「2年2組のお気に入り詩集」を作ることを知る。</p> <div data-bbox="459 510 1433 636" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【めあて】「おとのはなびら」「はんたいことば」の楽しさを考え、音読しよう。</p> </div> <p>「はんたいことば」 ○「うれしい」の反対言葉は何かを考える。 ○詩の全体を読む。 ○この詩を読んで感じたことや楽しさについて考え、発表をする。 ○音読の読み方の工夫について考え、音読する。</p> <p>「おとのはなびら」 ○題名から様子を想像する。 ○自分で詩を読んでみる。 ○この詩を読んで感じたことや楽しさについて考え、発表をする。 ○音読の読み方の工夫について考え、音読する。 ○自己評価とふりかえり・次時への見通しをもたせる。</p>	<p>◆詩の楽しみ方を学習すること、それを友達に伝えることを理解させる。</p> <p>◆詩の全体を見せずに、「うれしい」の反対言葉を児童に考えさせる。 ◆詩の世界では、「いしれう」という言葉遊びもいいのだという楽しさを感じられるようにする。 ☆語の区切りやリズムに気を付けて音読している。 【観察】（知・技） ☆詩を読んで感じたことを積極的に共有している。 【観察・ワークシート】 （主体的な態度）</p>

2 (本時)	詩「ねこのこ」の書かれている様子を思い描きながら楽しく音読する。自分が気に入った詩について、理由を添えて選ぶ。	<p>【めあて】「ねこのこ」の楽しさを考え、音読しよう。三つの詩の中でどれが気に入ったか理由といっしょに考えよう。</p> <p>○題名から、自分が知っている子猫の様子について話し合う。 ○自分で詩を読んでみる。 ○子猫の様子を動作化しながら読む。 ○三つの詩を比べて、自分がいいなと思った詩を一つ選ぶ。 ○理由を考え、発表する。 ○今日の自己評価と学習感想を書く。 ○次時の予告を聞く。</p>	<p>◆動物の飼育経験が少ない児童のために、子猫の想像を膨らませる。 ◆擬態語、擬音語に注目させる。 ☆詩を読んで、感じたことを発言したり、書いたりしている。 【発言・ノート】(思・判・表)</p>
◆図書の日や朝学習などを利用してたくさんの詩に触れる機会を作る。			
3	言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで、心を豊かにし、共有することを通して互いの思いや考えの違いに気付く。	<p>【めあて】お気に入りの詩を選んで紹介しよう。①</p> <p>○前時の学習を振り返る。 ○3つの詩を音読する。 ○本時のめあてと学習課題を知り、見通しをもつ。 ○詩集からお気に入りの詩を選び、カードに視写する。 ○その詩のおもしろさと選んだ理由を書き入れる。</p>	<p>☆詩集を進んで読み、詩の世界に入って楽しんでいる。【観察・カード】(主体的な態度)</p>
4	言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで、心を豊かにし、共有することを通して互いの思いや考えの違いに気付く。	<p>【めあて】お気に入りの詩を選んで紹介しよう。②</p> <p>○前時の学習を振り返る。 ○前時でよく書けていた児童の作品を紹介する。 ○本時のめあてと学習課題を知り、見通しをもつ。 ○詩集からお気に入りの詩を選び、カードに視写する。 ○その詩のおもしろさと選んだ理由を書き入れる。 ○できた作品を紹介する。 ○今日の自己評価と学習感想をノートに書く。</p>	<p>☆自分が面白いと思った詩を選び、その理由を考えてカードに書くことができる。【カード】(思・判・表)</p>

9 本時案

(1) 本時の目標

- ・詩「ねこのこ」の書かれている様子を思い描きながら楽しく音読することができる。
- ・自分が気に入った詩について、理由を添えて選ぶことができる。

(2) 本時の展開（2時間目/4時間）

段階	○主な発問と指示 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ★評価規準（評価方法）
導 入	<p>1.前時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】「ねこのこ」の楽しさを考え、音読しよう。三つの詩の中でどれが気に入ったか理由といっしょに考えよう。</p> </div> <p>2. 題名から、自分が知っている子猫の様子について話し合う。 ○「子猫」と聞いてどんな様子が頭に浮かびますか？ ・小さくてかわいい。 ・よくじゃれて遊んでいる。</p>	<p>◆動物の飼育経験が少ない児童のために、子猫の想像を膨らませる。</p>
展 開	<p>3. 一人一人が声に出して読んでみる。 ○今日は、「ねこのこ」という詩を読みます。猫は、どんなことをしているか想像しながら、読みましょう。</p> <p>4. ねこのこの様子を考え、動作化する。 ○ねこのこはどんなことをしていましたか。 ・あくび ・遊んでいた ・かくれていた など ○そのときは、どんな様子ですか。</p> <p>5. 様子を想像しながら、音読する。 ○様子を想像しながら、もう一度読んでみましょう。 ○どんな楽しさがありましたか。ワークシートに書きましよう。</p> <p>6. 三つの詩を比べて、自分がいいなと思った詩を一つ選ぶ。 ○これまでに三つの詩を読んできましたが、どの詩が「いいな」と思いましたか。ワークシートに書きましよう。</p> <p>7. 理由を考え、発表する。</p>	<p>◆それぞれのもつイメージを大切にするために、個人個人で読ませる。</p> <p>◆動作化をすることで、様子を想像できるようにする。</p> <p>☆詩を読んで、感じたことを発言したり、書いたりしている。 【発言・ノート】（思・判・表）</p> <p>◆それぞれの児童のお気に入りを見える化するために、名前のマグネットを使用する。</p> <p>◆悩んでいる児童には、ヒントカードを提示する。</p> <p>☆【思】詩を読んで感じたことを共有している。（ワークシート・発表）</p>

振 り 返 り	<p>8. 今日の自己評価と学習感想を書く。</p> <p>①「ねこのこ」の書かれている様子を思い浮かべながら楽しく音読することができましたか。</p> <p>②自分が気に入った詩について、理由と一緒に考えることができましたか。</p> <p>9. 次時の予告を聞く。</p> <p>○次回は、詩集から自分のお気に入りの詩を見つけてみましょう。</p>	<p>◆記号(◎○△)を使って、どの児童も目標について振り返ることができるようにする。</p>
------------------	--	---

(3) 板書計画

○ふりかえり	「はんたいことば」	「おとのはなびら」	「ねこのこ」	<p>一月二十一日</p> <p>詩の楽しみ方を見つけよう</p> <p>「ねこのこ」には、どんな楽しさがあるだろう。三つの詩の中でどれが気に入ったか理由といっしょに考えよう。</p>
	<p>・ ・</p> <p>名前のマグネット</p>	<p>・ ・</p> <p>名前のマグネット</p>	<p>・ りゆう㊀</p> <p>・ りゆう㊁</p> <p>・ りゆう㊂</p> <p>名前のマグネット</p>	

【参観の視点】

- 1 読みを深めるための工夫
 - ・ねこのようすを思い浮かべるために、動作化は効果的であったか。
- 2 ワークシートの工夫
 - ・自分の考えの根拠を明確にするために、ワークシートは効果的であったか。
- 3 板書の工夫
 - ・詩の特徴を視覚的に捉えるための板書は適切であったか。

10 研究授業を終えての成果と課題（児童のワークシートや感想から）

○成果 ●課題

実態調査の工夫

○都の学力調査を低学年では行っていないため、都の意識調査を参考にして質問数を限定し、発達段階に合わせた文章のアンケートを作成した。また、児童の実態を把握するために、東京ベーシックドリルを用いてアセスメントを行った。意識調査とアセスメントを実施することで、児童の学び方や言葉に関する課題を適切に分析することができた。また、課題に応じた手立てや教材を研究することができた。

言葉を豊かにするための工夫

○言葉遊びなどの活動を通して、知らない言葉の意味を調べたり、辞書を使って言葉を探したりすることで、興味を持って語彙を増やすことができた。

○本単元の指導後、「見たこと、かんじたこと」での詩の作成において、擬音語や擬態語を使用した詩を書き上げる児童が多くいた。また、日本語学習中の児童も覚えた言葉を活用し、自分らしい詩を作り上げることができた。

●辞書引き学習は、継続して行うことが難しく、決まった時間に行うように習慣化する必要がある。

読書活動の工夫

○定期的に読み聞かせを行ったことで、読書習慣が身に付き、隙間時間に読書をする児童が増えた。

○読み聞かせで紹介した本を、その後借りる児童が多く見られ、読書に対する意欲が高まった。

●児童の趣向により、読む本の内容が偏ってしまうため、幅広い分野の本を読めるように紹介する必要がある。

読みを深めるための工夫

○動作化をしながら読んだことで、児童が様子を想像し、詩の世界に入り、楽しみながら読む様子が見られた。

（児童の感想から）

- ・「ねこのこ」を読んで、ねこがやっていることと一緒にすることをして読んでみたら、もっと楽しかった。
- ・音読が楽しかった。

●本単元の中では、児童の自由な想像を膨らませるために、意図的に範読をしなかった。日本語学習中の児童にとっては、読み方がわからず誤った読み方をしてしまった。

板書の工夫

○拡大表示した詩に児童の気付きを書き込むことで、意見がまとまらない児童も板書を参考にして理解しやすくなり、学級全体で学びを深めることに繋がった。

○3つの詩の中から、児童が自分の好きな詩を選び、その理由を考えたり友達の発表を聞いたりすることにより、友達との感じ方の違いに気付くことができた。

●2時間に分けて3つの詩を紹介したことで、本時で扱った詩を好む児童が多く、3つの詩を公平に比較させることができなかった。

ワークシートの工夫

○話型を提示したことで、発表の際にも自信をもって発表することが出来ていた。

○理由が書けない児童にヒントカードを活用した。このことで、第一時では「思いつかなかった」と書いていた児童も第二時ではヒントカードを参考にしながら、自分の言葉で理由を書くことができた。日本語学習中の児童もヒントカードを見ながら書くことができた。



